

りんご黒星病菌の感染は大幅に早まる予想

～ 薬剤防除は展葉期から確実に実施してください ～

1. 現在までの発生状況と今後の発生予想

前年は防除の徹底と生育初期の少雨等により本病の発生量はやや少なく推移したものの、県北部や県南部においては新たにEBI剤耐性菌やQoI剤耐性菌が確認された園地があり、耐性菌発生園が拡大傾向にある。子のう胞子の飛散は展葉期頃に多くなるため、展葉期からの予防防除を主体として適期防除を行わないと、発生面積のさらなる拡大が懸念される。

本年の消雪日は、かづの果樹センター（鹿角市）で2月26日（平年3月31日）、果樹試験場（横手市）で3月1日（平年4月4日）でいずれも34日早かった。

果樹試験場におけるりんごの発芽は‘つがる’が3月21日（平年4月6日）で16日早く、‘玉林’が3月22日（平年4月6日）で15日早く、いずれの品種とも調査開始以来最も早かった。‘ふじ’も間もなく発芽するとみられる（平年4月8日）。

3月19日に仙台管区気象台が発表した1か月予報によると、向こう1か月の気温は高く、降水量はほぼ平年並と予報されている。

今後、りんごの初期生育の大幅な前進と同時に、子のう胞子の飛散開始*も大幅に早まると予想される（表-1、2）ため、展葉期以降の薬剤防除を適期にかつ確実に実施する必要がある。

（*子のう胞子飛散の簡易予測では、消雪日からの日平均気温の積算温度が180日度に到達した日以降の降雨日から飛散を開始し、葉の濡れ時間が10時間以上になると感染する。）

2. 防除対策

- ① 剪定枝の片付けによるスピードスプレヤーの走行路の確保や、防除機械の点検などを行い、薬剤防除が実施できる体制を整える。
- ② 展葉期の防除実施日は、発芽後10日を目安とするが、やや早まることが予想されるため、果樹試験場のウェブサイトの情報提供される子のう胞子の飛散状況や関係機関からの情報を参考とし、気象予報などを確認して決定する。薬剤はベフラン液剤25 1,000倍を散布する。子のう胞子の飛散量は展葉期頃に多くなるため、剪定が終了していない場合でも、スピードスプレヤーの走行路を確保し、必ず実施する。
- ③ ②の展葉期散布後の10日以内にストライド顆粒水和剤1,500倍又はパスポート顆粒水和剤1,000倍を散布する。

3. 資料

表-1 鹿角市における消雪からの積算気温が180日度に到達する日

| 起算日 | 積算条件 *1 | | |
|------|---------|-------|-------|
| | 平年 | 平年+2℃ | 平年+5℃ |
| 2/26 | 4/15 | 4/10 | 4/5 |

*1 2/26～3/22の日平均気温及び3/23以降の日平均気温の平年値は鹿角市アメダス観測データを使用

かづの果樹センターにおける消雪日の平年は3/31、前年は3/16。

ふじの発芽日は平年が4/12、前年は4/11、展葉日は平年が4/24、前年は4/22。

表-2 横手市における消雪からの積算気温が180日度に到達する日

| 起算日 *1 | 積算条件 *2 | | |
|--------|---------|-------|-------|
| | 平年並 | 平年+2℃ | 平年+5℃ |
| 2/27 | 4/4 | 4/1 | 3/29 |

*1 横手市では果樹試験場における50%消雪日を起算日とした。

*2 2/27～3/22の日平均気温及び3/23以降の日平均気温の平年値は横手市アメダス観測データを使用。

果樹試験場における消雪日の平年は4/4、前年は4/4。

ふじの発芽は平年が4/8、前年は4/7、展葉日は平年が4/19、前年は4/18。

【 問合せ先 】

| | | |
|-----------|---|--------------|
| 秋田県病害虫防除所 | TEL | 018-881-3660 |
| 秋田県果樹試験場 | TEL | 0182-25-4224 |
| かづの果樹センター | TEL | 0186-25-3231 |
| 掲載HP | https://www.pref.akita.lg.jp/bojo/ | |